



バッハの森通信

第 156 号
2022 年
7 月 20 日発行

一般財団法人バッハの森

〒300-2635 茨城県つくば市東光台2-7-9 <http://www.bach.or.jp>

☎ 029-847-8696 / Fax 029-847-8699 e-mail : info@bach.or.jp

郵便振替 00380-4-16119 一般財団法人バッハの森

最も大切なのは人の命

悪魔の正義を防ぐために

ロシア軍がウクライナに侵攻して以来5ヶ月たちましたが、全く決着がつかないまま長期戦の様相を呈してきました。そもそもロシア軍がウクライナに侵攻したのは、ウクライナ人がこれほど抵抗すると考えていなかった大統領プーチンの誤算だったと言われていいます。それにしても、全西欧諸国を敵に回して、莫大な戦費と多数の人命を失いながら、なぜプーチンは戦い続けるのでしょうか。

彼はウクライナのネオ・ナチ政権に弾圧されている人々の解放が目的だと言います。要するに現ウクライナ政権の打倒が「正義」だという信念に基づいて戦っているのです。この主張は、彼の同調者以外、誰も認めていませんが、これはロシア人を中心とする大ロシア民族思想から生じた考えのようです。そして、大ロシア民族を統合する宗教としてロシア正教があります。実際、ロシア正教会がプーチンのうしろだてであることは、公式の会合でプーチンの隣に立っている正教会の大司教の姿が示しています。

* * *

プーチンのウクライナ侵攻とその続行は、正常な合理的判断からすると狂気の沙汰ですが、これを宗教戦争と考えるとその理由が分かってきます。彼はウクライナは大ロシア共同体の一員だと考えているのでしょう。しかしウクライナ人は、1991年にソ連が崩壊するまでソ連の一部であった苦い経験を再び味わいたくないのです。

歴史を通じてヨーロッパ人は度々宗教戦争を戦ってきました。例えば、11世紀から13世紀にかけて、

イスラム教徒から聖地パレスチナを解放し、聖地に巡礼するキリスト教徒を保護する目的で、西欧のキリスト教徒が、8回にわたって中東に遠征しました。十字軍です。

また16世紀に始まったドイツのルター、スイスのカルヴァンによる宗教改革が広まった結果、ヨーロッパ各地で宗教的対立が起こり、17世紀になるとプロテスタントとカトリックの諸侯がそれぞれ同盟を組み、主にドイツを主戦場として、ドイツ、デンマーク、スウェーデン、フランスなどの諸国を巻き込んで1618年から30年間も戦い続けた30年戦争になりました。近・現代になると、さすがに宗教問題が直接的原因となる戦争はなくなりましたが、多くの場合、政治、経済的要因に民族、宗教、宗派の違いが絡んでいることを見逃すことができません。

* * *

すべて戦争にまで対立した両者は、どちらも自分の主張が正しく、相手が悪いと非難します。人間は何らかの自己正当化をしなければ戦えないのです。それが宗教戦争だと、自分は正義を実現するために戦っていると信じる集団の戦いになります。しかし一例としてあげた中世の十字軍も、16、17世紀のプロテスタントとカトリックの戦いも、その結果を歴史的に検証すると、多くの人々が殺戮され、悲しみと恨みを後世に残しました。正義を実現するために戦ったと言う人々の正義は、悪魔の正義なのです。

では悪魔の正義を振りかざして攻め込んできたプーチンのロシア軍と、どう対処したらいいのでしょうか。ウクライナの人々が国土を防衛する熱意には感心しますが、伝えられる悲惨な現状報告に接して思うことは、一刻も早い停戦の道を探ることです。そんなこと分かっているが、どうしたらいいか分からないのだ、と反論されるでしょう。でも人の命を守ることを第一にすれば、道は見えて来ると思うのですが。

(石田友雄)

感動の出会い

私たちの許に留まってください

*このメディタツィオは、2022年6月26日に開かれた「バッハの森コンサート」で朗読された原稿を少々修正した文章です。

復活祭第2祝日の物語とカンタータ

本日のコンサートは、復活祭第2祝日、すなわち復活祭翌日の月曜日の礼拝のためにバッハが作曲したカンタータ「私たちの許に留まってください」(BWV 6)をテーマに構成されています。このカンタータは、この日のために指定された「エマオで起こった復活したイエスとの出会い」を伝える物語(ルカによる福音書24章13節～35節)に基づき、同じテーマのコラール「ああ主よ、われらの許に留まりて」によって前半を結びます。これから合唱とオルガンによってカンタータを演奏いたしますが、その前にこの物語と音楽に籠められた意味についてお話しして、この感動的な音楽をご一緒に楽しみたいと存じます。

受難物語の大筋

物語は、この事件が「その同じ日に」起こったと語り出します。この「同じ日」を説明するためには、その前置きであるイエスの「受難物語」の大筋を語らなければなりません。そこで細部を省略して大筋をたどると、先ず木曜日の晩に、エルサレムで弟子たちと逾越祭の正餐を守ったとき、イエスはパンを取り、祝福してそれを裂いて言われました。「取れ、これは諸君のために与えられる私の体である。私の記念としてこのように行え」。また杯を取り、感謝を捧げると弟子たちに与えられました。「これは、罪の赦しのため多くの人々のために流される私の血による新しい契約である」。

晩餐ののち、イエスと弟子たちがオリブ山のゲッセマネの園で祈りを捧げていると、祭司長、律法学者、長老たちが派遣した群集が、イスカリオテのユダに先導されて近づき、イエスを逮捕しました。イエスは大祭司のところに連行され、最高法院で夜を徹した裁判により神を冒瀆した罪により死刑を宣告されました。しかし彼らは死刑を執行する権限がなかったので、金曜日の朝、当時、ユダヤを占領していたローマの総督ピラトに訴え出て言いました。「この男は民衆を惑わ

し自分がユダヤ人の王、メシアだと言っております」。ピラトは祭司長、長老たちがイエスの人気を嫉んで訴えてきたと判断し、イエスを釈放しようとしたのですが、祭司長たちに扇動された群集が「十字架につけろ」と叫び続けるので騒動になるのを恐れ、イエスに死刑の判決を下しました。そこで兵士たちはイエスに十字架を背負わせ、刑場のゴルゴタに連れていき、昼の12時頃、他の2人の罪人と共に十字架につけました。午後3時にイエスは「わが神、わが神、なぜ私をお見捨てになったのですか」と叫んで息を引き取りました。その日の夕方、アリマタヤ出身の議員、ヨセフがピラトに願い出てイエスの遺体を引き取り、岩を掘った墓に納めました。

翌日、土曜日、律法に従って安息日を休んだ3人の女弟子たちは、週の初めの日、日曜日の早朝、ご遺体に塗る香料を携えて墓に行きましたが、御遺体は見当たりませんでした。すると輝く衣を着た若者が告げました。「驚くな、十字架につけられたイエスは復活なさって、もうここにはおられない。行って弟子たちに告げよ。あの方はガリラヤへ行かれた。そこでお目にかかれる」。驚いた彼女たちは墓から帰ると弟子たちにこのことを報告しましたが、彼女たちの話を誰も信じませんでした。

復活したイエスとの出会い

以上の「受難物語」の続きとして「その同じ日に」エルサレムの北西、約10キロの村、エマオに向かった二人の弟子の物語が始まります。ゲッセマネでイエスが逮捕されたとき弟子たちは、皆、イエスを見捨てて逃げてしまいました。一人、連行されるイエスの後について行って遠くから様子をうかがっていたペテロも、大祭司の召使いたちに「あいつもイエスの仲間だ」と言われると「そんな人は知らない」と言って逃げ出しました。イエスが処刑された後、弟子たちはユダヤ人を恐れ、扉に鍵をかけて閉じこもっていたと伝えられています。ですから、週の初めの日、エマオに向かった二人の弟子も、イエスは復活したという天使の話の話を全く信じていませんでしたし、むしろ迫害を恐れ、仲間から抜け出し逃げて来たのです。

この二人は、自分たちをローマの占領軍から解放してくれるメシアとしてナザレのイエスに望みをかけていたので、イエスが十字架で死刑になったことにショックを受け、これからどうしたらいいかわからないまま、恐れと不安から暗い顔をして道々話し合っていました。そこに一人の旅人が近づいて来て、何の話をしているのかと訊ねるので、この見知らぬ旅人が「復

活したイエス」とは気付かないまま、これまでエルサレムで起こった事件の経緯を話して聞かせました。するとその人は「君たちは何と頭が悪いにぶい人たちなのか。メシアは過越の小羊のように、自ら血を流して人々の命を救う方なのだと、預言者たちが語ってきたことを信じられないのか」と言って、メシアについて聖書に書かれている箇所を詳しく説明してくれました。その説明を聞いているうちに二人は感動して心が燃えてくるのを感じていました。そこで、目指していたエマオ村に近づいたとき、この見知らぬ旅人がさらに先へ行こうとするので「私たちの許に留まってください。はや夕暮れになり、日も傾いてきましたから」と熱心に彼を引き止めました。彼らの願いを聞きいれた旅人が一緒に村の宿屋に入り夕食の席につき、パンを裂いてそれを渡してくれた途端、四日前の過越の晩餐の席で、パンを裂き「取れ、これは諸君のために与えられる私の体である」と言われたイエスの姿が、それまで誰か分からなかった旅人に重なりました。「あ、復活なさったイエス様だ」と彼らが気付いた途端、イエスの姿は消えました。復活したイエスに出会った感動に二人の心は震え、同時にそれまで彼らをとりこにしていた恐れと不安が消え失せました。二人は急いでエルサレムにとって返し、仲間の弟子たちにエマオで起こった感動の出会いについて語って聞かせました。

カンタータが描く出会いと祈願

カンタータ第1曲の合唱は、「私たちの許に留まってください、はや夕暮れになろうとしていますし、日も傾きましたから」と歌い出します。最初はまだ復活したイエスとは気付かないまま見知らぬ旅人に向かって「留まってください」と願う歌声ですが、途中からその願いは必死の叫び声になります。迫ってくる暗闇からの救出を願って、復活したイエスに呼びかける声です。“Abend”（夕暮れ）には、恐ろしい暗闇と死を表す下降減音程がつけられ、合唱の背後で響く器楽の同音反復音が秘かに迫る夕暮れを思わせませす。本日は演奏しませんが、第2曲は、「神の御子よ」と復活したイエスに呼びかけて歌い出し、迫ってくる暗闇に対して「私たちの光」として「留まってください」と願います。第3曲は、コラールの第1節と第2節を歌うソプラノが、まず「光」が「御言葉」を指していることを示します。ここで「御言葉」とは、メシアは過越の小羊のような方であることを伝える聖書であり、さらに「御言葉」とともに終わりまで守ることができるように願う「聖礼典」は、復活したイエスの姿を信徒に現す「パン裂き」の儀式に他なりません。装飾なしに歌われるコラールは御言葉と聖礼典を守って歩む信徒の「揺るがない心」を示し、その上を活発に動

き回るオブリガートは信徒の群れを照らし導く光のようです。

第4曲のレチタティーヴォでカンタータの後半が始まります。それは、夕暮れどころか世界中は真っ暗だと語り始め、この暗闇は、誰一人正しく歩まないことを怒ったイエス御自身が燭台を倒したから起こったのだと説明します。本日は演奏しませんが、続く第5曲のアリアはドイツ語で“Jesu”すなわち「イエスよ」と呼びかけて始まります。この“Jesu”には上向線と下降線が交差する十字架形、ドイツ語の“Kreuz”の音形がつけられ、十字架上のイエスを仰ぎ見ながら「私たちに御言葉の光を輝かせ、私たちが罪の道に歩まず、絶えず誠実にあなたを思うようにしてください」と祈願する信徒の姿を伝えます。

終曲の第6曲は、コラール「私たちを支えてください、主よ、あなたの御言葉の許に」の第2節です。これは、意に反して始まった宗教戦争の終結を願う宗教改革者、マルチン・ルターが作詞したコラールですが、第1節は「(ローマ) 教皇と (オスマン) トルコ人の殺戮を抑えてください」と当時の状況を具体的に反映する言葉でイエス・キリストに祈願します。そして第2節、すなわちカンタータの終曲で「証明してください、あなただの御力を」と願いますが、「御力」をこの世の「軍事力」のような「力」と考え違いしてはいけません。十字架上で自ら血を流した過越の小羊のような方に祈願しているのですから。またそのような方に「私たちの許に留まってください」と願ったことを思い出してください。

イエスの復活は誰にでも即座に分かる客観的な出来事ではありません。エマオに向かっていた二人の弟子は、感動の出会いを経験するまで、見知らぬ旅人が復活したイエスだと気付かませんでした。しかし迫り来る暗闇を恐れて、「私たちの許に留まってください」と叫ばずにはいられなかったのです。そうしたら感動の出会いが起こったのです。

* * *

今、私たちの世界は本当に暗闇に覆われています。しかし、コロナのようなパンデミック、地球温暖化の結果としての全世界を襲う猛暑、その上、破壊と殺戮を続けるウクライナ戦争などが、グローバリズムで結びついた全人類が運命共同体であることを証明します。このような世界で生き残る道は、過越の小羊にこそ学べるのではないのでしょうか。(石田友雄)

心底堪能いたしました

第3回・朝のオルガン音楽鑑賞会

2月25日に予定されていた「第3回・朝のオルガン音楽鑑賞会」が、コロナ禍のため急遽延期となり、心待ちにしておりましたところ、6月3日に無事開催されました。バッハの森記念奏楽堂のユルゲン・アーレント氏が建造したパイプオルガンは、奏楽堂の素晴らしい音響効果と相まって、オルガニストの奏でる「音」が心の中に染みこんで来ます。私だけではないと思いますが、この特別な感覚が心地よく、待望の再会でした。

石田友雄氏のトークに先立ち、この日の演奏者の紹介がありました。オルガンの宮本とも子氏、ソプラノの鈴木美紀子氏、オルガン助手の別所香苗氏の皆さんです。オルガン助手は、ただ譜めくりをするだけではなく、タイミングに合わせてストップキーの操作をする大切な役目を果たします。

先ずこの日演奏される3曲のコラールについて、石田友雄氏の解説がありました。エアフルト大学の哲学教授、ミュールハウゼンの牧師であったL. ヘルムボルトが作詞した「御神よりわれ去ることなし」は、1563年に流行した疫病で多数の死者が出た経験に基づき、神の守護、死、永遠の命などをテーマとする9節のコラールで、誰でも歌えるように、当時流行りの歌のメロディーを利用しているとのことでした。

次に「主イエスよ、我らを顧み」は、1648年に「詠み人知らず」で知られていましたが、1676年出版の讚美歌集では、ザクセン・ワイマール侯ヴィルヘルムII世が作詞者とされています。「聖霊、信仰、聖なるかな、三位一体」の4節で構成され、バッハが奉職していたライプツィヒのトマス教会では、日曜日ごとに牧師の説教前に歌われたそうです。

コラール「感謝捧げよ、心、口もて」の歌詞と旋律は、「アウグスブルク信仰告白」百年記念の祝祭のために、1630年にM. リンカルトによって作られました。歌詞は旧約聖書続編のシラ書50章が伝える、エルサレム神殿で祭壇の務めを終えた大祭司シモンが、大音響のラップと朗々と響く詠唱者たちの讚美に続いて会衆を祝福して語った言葉によっています。バッハは、このコラールの第1節を用いて宗教改革記念日用のカンタータ「主なる神は太陽にして盾」(BWV 79)の第3

曲、コラール全3節を用いてカンタータ(BWV 192)、それに本日演奏されるオルガン曲(BWV 657)を作曲しました。いずれも祝祭的な喜びに満ち溢れています。

解説の後、以上3曲のコラールのオルガン編曲(BWV 658、BWV 655、BWV 657)が演奏されましたが、先ず最初の2曲は、それぞれ2節づつ全員で歌いました。第3曲「感謝捧げよ、心、口もて」は、先ずカンタータ(BWV 79)より第2曲のアリアと第3曲のコラールをオルガン伴奏で鈴木美紀子さんがドイツ語で歌いましたが、オルガンとソプラノの掛け合いが奏楽堂に美しく響きました。それから全員で全3節を歌いました。

オルガン編曲を聴いているとき、私は自分でも弾けるようになってみたいという思いにとらわれ、こういう出会いがあるのは「朝のオルガン音楽鑑賞会」ならではのことと思いました。

別所さんから、時間の都合上、ヴィヴァルディ／バッハのコンチェルトは割愛させていただくとのことのお知らせがあり、鑑賞会のフィナーレとして大曲「パッサカリア ハ短調」(BWV 582)が演奏されました。緩急自在の指裁き、見事なペダルのフットワーク、それにオルガニストと息の合った助手のストップキーワークに、私自身も指で鍵盤を押す感覚で、時に音に耳を傾け、時に目をつぶって奏楽堂の音響に浸りました。讚美が奏楽堂を跳ね回り、終わると拍手、拍手。アンコールと思いきや、演者3人がオルガン・ギャラリーから降りて来て、「時間となりましたので・・・」とご挨拶があつて終了。私は次回を楽しみに帰途につきました。(森浩孝)

* * *

再度の「出会い」を噛みしめて

バッハの森コンサート

去る2022年6月26日、久しぶりにバッハの森に足を運び、聴衆としてコンサートに参加してまいりました。「聴衆として」とわざわざ記したのは、かつてつくば市内やその近辺に在住していた頃は、私もクワイアのメンバーとして演奏者の側で参加していたからです。

バッハの森の学習活動やコンサートは、教会歴に大まかに沿っています。今回のコンサートは「エマオの

出会い」がテーマで、バッハのカンタータは復活祭第2 祝日のために作曲された「私たちの許に留まってください」“Bleib bei uns” (BWV 6) が演奏されました。

実はこのカンタータはバッハの森で過去何回か演奏されています。バッハの森では、コンサートで演奏される音楽は、音楽的なことと共に、時代背景を含めた宗教文化史的観点からも学習します。教会歴の中の位置づけや、ドイツ語の歌詞の和訳を通じた意味の確認にとどまるものではなく、たいへん総合的なものです。例えば、通例として、聖書からの引用や聖書の記事との関連を学ぶだけではなく、曲中に取り上げられているコラールの旋律や歌詞を確認し、それらをドイツ語、日本語の両方で歌い、数多くあるコラール編曲をオルガンや合唱で演奏してみるなどの活動が含まれます。時には旋律的・意味内容的に関連するグレゴリオ聖歌にさかのぼって学ぶこともします。そして、これらの学習コースで学んだ楽曲は、主要な曲目となるカンタータと共に、しばしばコンサートでも演奏されます。

このように詳しく学びますので、過去に一度演奏したカンタータは、コラールと共に一曲、一曲が心に残り、その時のコンサートの演目や、どのような演奏をしたかなどをよく覚えているものです。その意味で、過去2回、私も参加して歌ったことのあるカンタータ「私たちの許に留まってください」“Bleib bei uns” (BWV 6) は、私にとって馴染みの深い演目です。今回のコンサートへも新しい音楽体験を期待するというより、懐かしい友人たちに再会するという気持ちがまぎっていたような気がします。 ですが、コンサートのプログラムを開けてみると演奏曲目の最初のほうに、J. C. F. フィッシャー作曲のミサ「さあ来てください、諸国の人々の救い主よ」とあるではありませんか。いったいどういう意図でこの選曲になったのでしょうか。「さあ来てください、諸国の人々の救い主よ」は、クリスマスを待つ季節のコラールです。クリスマスに向かう季節のコラールを復活祭後のコンサートに選ぶとは、教会歴を多少知っている人なら、少し早すぎないかと誰もが感じることでしょう。というわけで、コンサートの最初から意表をつかれました。このようになった理由は、このカンタータで歌われる2 曲のコラールのうち、終曲のコラール「あなたの御力を示してください」が、グレゴリオ聖歌「来ませ、諸国の人々の贖い主よ」と関連しているからということでした。この聖歌は、ルターのコラール「さあ来てください、諸国の人々の救い主よ」の元歌 (モリタ) です。このミサ曲を選んだ経緯は、バッハの森のフェイスブックに、バッハの森クワイアの指揮者、比留間恵

さんが書いておられます。後で少し調べたところ、ルターと共同してコラールの歌集を作ることに貢献した J. ヴァルターとルターの間で、グレゴリオ聖歌の旋律、及び歌詞の引用、転用があるという複雑な経緯があることが分かりました。バッハの森で合唱をはじめとする学習プログラムに参加なさっている皆さんは、これらのことを比留間恵さんや石田友雄先生から直接習っておられるはずで、うらやましく感じました。比留間恵さんのフェイスブックへの投稿によると、合唱練習前のコースでは、コラール成立の経緯だけではなく、コラールやカンタータで歌われているイエス像の違いなど、歌詞内容の解釈にも深く踏み込んでいる様子で、バッハの森が充実した学びの場として変わらず継続されている様子がうかがえ嬉しく思いました。コンサートの話に戻ると、カンタータの合唱直後にルターとヴァルターによる「主よ、授けたまえ」が朗唱されました。この朗唱の効果は大きく、この場面で朗唱があるために、コンサート全体の中のミサ曲とカンタータ、コラールの輪郭線が、音楽の上でも内容の上でも繋がっていきます。非常によく練られたプログラムです。朗唱を聴いて、復活後、姿を現し再び去って行かれたイエスに「どうぞ留まってください」と懇願する理由、主と共にいて主に望むことは何か、ここに一つの答えがあるように感じました。ルターやバッハが生きた時代と、私たちが生きる現在がつながる瞬間です。私にとっては、演奏者と聴き手の垣根が消え、時間と場面を共有するだけの存在になる瞬間でもありました。これは、今回、聴衆の立場から初めて気がついたことです。

合唱によるカンタータやミサ曲、鈴木由帆さんの素晴らしい演奏によるオルガンやハンドベルの他に入祭詩篇の他に使徒書、福音書、さらに締めくくりの詩篇と沢山の聖書朗読があり、石田友雄先生のメディアツィオ、日本語によるコラールの会衆斉唱が、変わらないバッハの森を伝えます。この変わらない枠組みの中で新しい学びがまだこんなにあるのだという思いとともに、バッハの森との再度の出会いを果たしたのが今回のコンサートの体験であったと言えます。

故石田一子先生は「バッハは演奏するたびに新しい発見がある」といつもおっしゃっていました。同じように、バッハの森の活動には何か新しいことが必ずあり、「古るびる」ということがないのだと、この文章を書きながら強く感じています。

なお、バッハの森のフェイスブックは、google などの検索エンジンに「バッハの森 facebook」と入力してください。facebook を使用していない方でもご覧になれます。(徐淑子)

2021年度・統計

会員数 (2022. 3. 31)		入退会者数		
		入会	退会	増減
維持会員	73 人	維持会員 3	16	-13
賛助会員	33 人	賛助会員 1	0	+ 1
学生会員	9 人	学生会員 2	1	+ 1
計	115 人	計		-11

集会回数

参加者延べ人数 (2021. 4. 1～2022. 3. 31)

学習コース	回数	延べ人数
クワイア (混声合唱)	31	396
器楽アンサンブル	10	44
声楽アンサンブル	1	3
ハンドベル・クワイア	13	63
ハンドベル・リンガーズ	10	87
オルガン音楽研究会	8	73
コーラル研究会	6	37
クラヴィコード・オルガン教室	3	6
チェンバロ教室	4	8
声楽教室	0	0
オルガン・クラブ	10	28
聖書	30	231
オルガン・クラヴィコード・チェンバロ練習	172	301
小計	298	1277

公開プログラム

コーラルを歌おう	14	108
カンタータ入門	14	115
オルガン音楽鑑賞会	2	52
コンサート (大人向け)	3	87
コンサート (家族向け)	2	96
小計	35	458

運営活動

運営委員会	10	73
有志懇談会	1	13
理事会	2	10
評議員会	2	10
クリスマス飾り付けと片付け	2	9
粗大ゴミ搬出	1	2
草取り、外周剪定	10	17
動画制作関連相談会	1	5
取材	2	3
見学	1	3
試奏	1	3
音源再生関連	5	16
小計	38	164

その他	回数	延べ人数
祝会	1	16
音楽鑑賞会	1	17
外部コンサート (後援)	3	54
小計	3	87
総計	374 回	1986 人
(一昨年比)	83%	81%

2021年度・会計報告 (2021. 4. 1～22. 3. 31)

【経常収支】

単位：千円

収入の部

基本財産受取利息	0
特定財産受取利息	0
年会費 (維持・賛助・学生会費)	678
事業収益	
1) 研究会 (学習コース)	1,476
2) 公開講座	175
3) コンサート	135
4) ワークショップ	0
5) 音楽教室	36
6) 楽器使用料	237
7) 賃料収益 (家賃収入)	1,202
一般寄付金	340
雑収益 (管理棟家賃、施設利用料ほか)	849
計	5,128

支出の部

給与手当	719
支払報酬 (会計事務所)	256
旅費交通費	269
通信運搬費 (郵送料、電話、ネット関係)	253
什器備品費 (楽譜・書籍、エアコン)	100
消耗品費 (コピー用紙、文具他)	48
修繕費 (楽器メンテ、植栽、修繕)	711
印刷製本費 (バッハの森通信、チラシ)	57
光熱水料費	653
賃借費 (地代、機器リース料)	1,207
火災保険料	130
諸謝金	722
租税公課 (固定資産税、法人事業税)	159
負担金 (振込手数料)	4
雑費 (コピー使用料ほか)	51
計	5,339
当期経常増減額	-211

【指定寄付収支】

単位：千円

土地地上権積立

(収入)		(支出)	
前期繰越	1,187		
寄付	111	次期繰越	1,298
計	1,298		1,298

*今後の支出計画	2024年	地上権（奏楽堂敷地）	800
	2024年	地上権（貸家敷地）	640
	2026年	地上権（資料館）	1,000

建物維持・修理

(収入)		(支出)	
前期繰越	492	トイレ配管	52
寄付	436	次期繰越	876
計	928		928

*今後の支出計画	2022年	建物修理	1,000
----------	-------	------	-------

オルガン修復

(収入)		(支出)	
前期繰越	530		
寄付	164	次期繰越	694
計	694		694

*今後の支出計画	2023年	オルガン調整	500
----------	-------	--------	-----

* * *

2021年度の事業・会計報告

2021年度の事業と会計の報告として、例年と異なる点などをやや詳しく報告いたします。

プログラムの中止と変更

昨年度ほど顕著な影響を受けませんでしたが、新型コロナウイルス感染防止のため、秋のシーズンの開始を9月10日から10月1日に延期しました。また、1月21日と2月4日の「オルガン音楽研究会」を休会としました。2月25日に予定していた『朝のオルガン音楽鑑賞会』は、次年度に延期しました。

このほか、台風のため10月1日の「コラル研究会」が休会に、雪のため1月7日の「オルガン音楽研究会」が休会になりました。

新規事業と試み

金曜プログラムの「オルガン音楽研究会」のまとめとして、各期の最後に『朝のオルガン音楽鑑賞会』を一般公開の形で開催しました。

また、バッハの森に残っている音源をデジタル編集して、1月8日に会員を対象とした鑑賞会『一子先生と奏でたクリスマス』を開きました。

3月27日に、つくば市文化振興財団支援、TsukubaPipe Organ Project 主催の『オルガンの息と弦の響き』を後援しました。

オンライン関係

昨年度より始めたZoomによる「歴史書・聖書入門」は、今年度も継続し、リモート参加が定例化しました。

また、月一回行われる「運営委員会」でもリモート参加が可能になったことにより、運営面でも広がりを持つことが出来るようになりました。

昨年度、つくば市文化奨励事業参加作品として製作した「影絵と音楽と朗読でつづるクリスマス物語」に続き、今年度も有志によって「音楽と朗読でつづる影絵の物語／天の王子とシオン姫」を製作し、ユーチューブで配信されました。

また、かねてより懸案であったオンラインによる広報を本格化するために、2022年度より広報チームを発足させることが決まりました。

リードオルガンの修復

故石田一子氏所蔵のリードオルガンの修復を日比野四郎氏に依頼、3月にセミナーホールに搬入されました。この楽器は、バッハの森が建てられる前に、当時、石田夫妻が住んでいた公務員官舎で発足した「リードオルガン研究会」時代から使われていたもので、日比野氏の手によって見事によみがえりました。

この修復費用120万円は、石田友雄氏によるもので、楽器はバッハの森に寄贈されました。

借入金の債権放棄について

昨年もお報告しましたが、バッハの森が石田友雄氏より借入れていた4,524万円の借入金は、2020年度の理事会・評議員会において、石田友雄氏が債権放棄されたことにより、バッハの森の「借金」がなくなりました。

しかしながら、建物や楽器のメンテナンス、および地上権更新につきましては、会員の皆様のご寄付に頼らざるを得ず、財源の大きな割合を占めております。今後もお力添えをよろしくお願いいたします。

(バッハの森会計担当)

日誌 (2022.4.1～6.30)

*R: オンライン参加

- 4.9 **運営委員会** 参加者9名 (R2)。
4.16 **駐車場整備** 4名。
草取り 2名。
4.19 **取材** 菅原智氏 (読売新聞)
5.2 **打ち合わせ** ナカルリコーダー教室の合宿とコンサートの準備 参加者4名。
5.5 **合宿とコンサート** ナカルリコーダー教室
5.9～12 **修繕工事** ニットウ工業 (資料館玄関の白蟻駆除)
5.14 **運営委員会** 参加者8名 (R1)。
5.19、20 **工事** ニットウ工業 (コートヤード)
5.21 **会計決算** TOMA(大庭良子氏)、2名。
5.22 **草取り、剪定** 3名。
5.26 **コートヤード植木植樹** 鈴木造園土木
6.3 **朝のオルガン音楽鑑賞会** 参加者23名。
6.12 **相談** 「バッハの森のクリスマス」CD化 嶋ゆりか氏、2名。
6.18 **一般財団法人バッハの森理事会・評議員会** 9名。
6.20 **相談** 「バロック音楽の花束」(10月10日) 3名。
6.22 **エアコン洗浄** ダスキン (奏楽堂)
6.23 **オルガン調整** 河内克彦氏、アシスタント1名。
6.26 **バッハの森コンサート**
参加者23名+出演者14名:計37名。
6.27～9.9 **夏期休館** 「夏休みの音楽会」関係プログラムは7.24～9.9

- 8名 (R3)、5.14/6名 (R2)、5.21/7名 (R1)、5.28/4名、6.4/8名 (R3)、6.11/8名 (R1)。
器楽アンサンブル 5.14/4名、5.28/4名、6.4/4名、6.18/3名、6.25/4名。
声楽アンサンブル 6.4/6名、6.25/5名。
ハンドベル・クワイア 4.16/4名、5.7/3名、5.21/4名、6.4/4名、6.18/4名。
ハンドベル・リンガーズ 4.17/7名、5.22/11名、6.12/11名。
声楽レッスン 5.21/3名、6.4/2名、6.11/2名。
オルガン、クラヴィコード、チェンバロ練習
4.1/1名、4.2/1名、4.5/1名、4.7/1名、4.8/1名、4.9/1名、4.12/1名、4.13/1名、4.15/4名、4.16/2名、4.18/1名、4.19/1名、4.21/1名、4.22/2名、4.26/1名、4.27/1名、4.28/1名、4.30/1名、5.6/1名、5.7/1名、5.10/1名、5.11/1名、5.12/1名、5.13/3名、5.14/2名、5.18/2名、5.19/2名、5.20/2名、5.21/1名、5.24/1名、5.25/1名、5.26/1名、5.27/2名、5.28/2名、5.31/2名、6.1/1名、6.2/1名、6.3/1名、6.4/2名、6.7/1名、6.8/1名、6.9/1名、6.10/1名、6.11/3名、6.18/2名、6.24/1名、6.25/2名、6.26/1名。

寄付者芳名 (2022.4.1～6.30)

J. S. バッハの音楽鑑賞シリーズ コラール・カンタータ入門

カンタータ:「私たちの許に留まってください」(BWV 6)
コラール:「ああ主よ、我らの許に留まりて」
「御言葉の許に我らを支えて」

- 4.16 オルガン: 別所香苗。参加者10名。
4.30 オルガン: 笠間きよ子。参加者11名。
5.14 オルガン: 金谷尚美。参加者9名。
5.28 オルガン: 安西文子。参加者11名。
6.11 オルガン: 安西文子、金谷尚美。参加者11名。

学習コース

- バッハの森クワイア** 4.9/13名、4.16/12名、4.23/11名、4.30/11名、5.7/13名、5.14/12名、5.21/14名、5.28/12名、6.4/15名、6.11/12名、6.18/14名、6.25/14名(ゲネプロ)、6.25/14名(コンサート)。
オルガン音楽研究会 4.8/7名、4.22/8名、5.6/7名、5.20/10名。
オルガン・クラブ 4.15/4名、5.13/3名、5.27/4名、6.10/4名。
歴史書・聖書入門 4.9/6名 (R1)、4.16/7名 (R2)、4.23/6名 (R2)、4.30/4名、5.7/



新設したコートヤードとフェンス向側の駐車場